

第7回 金沢自転車ネットワーク形成に向けた勉強会 開催記録【概要版】

- ◆「第7回金沢自転車ネットワーク形成に向けた勉強会」を9月16日（土）に開催しました。
- ◆県内外から61名の方々にご出席いただき、基調講演や金沢での取組事例の報告をはじめとして、ラウンドテーブル形式での意見交換を行いました。

- ・開催日：平成29年9月16日（土）13:30～16:30（受付開始：13:00）
- ・会場：近江町いちば館（近江町交流プラザ4階）
- ・主催：金沢自転車ネットワーク協議会
- ・参加者数：61名（事前申込53名、当日申込8名）
- ・プログラム：

1) 開会	13:30
2) 開会挨拶 ・金沢大学 理工研究域環境デザイン学系 教授 高山 純一 （金沢自転車ネットワーク協議会会長） ・国土交通省 金沢河川国道事務所 事務所長 富山 英範	13:30～13:40
3) 【第一部】基調講演・金沢での取組報告 (1) 基調講演：「カラダもココロも、まちも元気にする自転車！」 講師：サイクルライフナビゲーター 絹代 (2) 金沢での取組報告 ・「広域的な自転車ネットワーク候補路線の策定」 発表者：国土交通省 金沢河川国道事務所 調査第二課 技官 國弘 純 ・「いしかわ里山里海サイクリングルートの取組」 発表者：石川県 土木部 道路整備課 専門員 佐野 司行 ・「自転車の安全な利用の促進に関する条例の一部改正について」 発表者：金沢市 都市政策局 交通政策部 歩ける環境推進課 課長 安宅 英一	13:40～14:50
4) 休憩	14:50～15:00
5) 【第二部】ラウンドテーブル ・進行：NGO 地球の友・金沢 代表 三国 千秋 （金沢自転車ネットワーク協議会委員） (1) 進め方の説明 (2) ラウンドテーブル 【テーブル1】「カラダもココロも、まちも元気にする自転車！」 発表者：サイクルライフナビゲーター 絹代 【テーブル2】「自転車の走りやすいまちづくりの取り組み ～国道11号（高松市木太地区）～」 発表者：国土交通省 香川河川国道事務所 高松国道維持出張所 管理第二係長 中西 麻美子 【テーブル3】「バスドライバーと自転車利用者の意識の共有」 発表者：バスと自転車の共存プロジェクト 代表： 高島 亮太 副代表： 稲見 正博 【テーブル4】「公共交通との連携について」 発表者：NGO 地球の友・金沢 三国 成子 （金沢自転車ネットワーク協議会委員）	15:00～16:20
6) 閉会：NGO 地球の友・金沢 代表 三国 千秋 （金沢自転車ネットワーク協議会委員）	16:20～16:30

▼基調講演（サイクルライフナビゲーター 絹代氏）



◇「カラダもココロも、まちも元気にする自転車！」と題して、自転車のシェイプアップ効果や健康面の効用、自転車を活用したまちづくりへの展開などについて基調講演いただきました。特に、自転車の最大の利点は「誰もが長時間続けられる点」であり、自転車を効果的に活用した健康的な身体と心づくりの必要性についてお話いただきました。

▼金沢の取組（金沢河川国道事務所 調査第二課 國弘技官）



◇「広域的な自転車ネットワーク候補路線の選定」と題して、「金沢自転車ネットワーク協議会」における取組についてご報告いただきました。
◇金沢における自転車通行空間整備状況や、今後郊外でも自転車ネットワークを拡大していくために策定した「広域的な自転車ネットワーク候補路線（案）」についてご発表いただきました。

▼金沢の取組（石川県 土木部 道路整備課 佐野専門員）



◇「いしかわ里山里海サイクリングルートの取組」と題してご報告いただきました。
◇石川県では、加賀～金沢～能登にわたるサイクリングルートを設定し、「ジャパンエコトラック」にも登録されているとのことで、現在実施中のスタンプラリーについても PR いただきました。

▼金沢の取組（金沢市 都市政策局 交通政策部 歩ける環境推進課 安宅課長）



◇「自転車の安全な利用の促進に関する条例」と題して、金沢市で改正を検討中の「金沢市における自転車の安全な利用の促進に関する条例」についてご報告いただきました。
◇条例の見直しにより、自転車保険加入義務化やヘルメット着用義務化を盛り込む点についてご発表いただきました。

▼取組の報告（香川河川国道事務所 高松国道維持出張所 管理第二課 中西係長）



- ◇「自転車の走りやすいまちづくりの取り組み～国道11号（高松市木太地区）～」と題してご報告いただきました。
- ◇車道と歩道を分断している街路樹や柵などの道路施設帯を撤去し、路肩活用による自転車通行空間を整備した事例についてご紹介いただきました。

▼取組の報告（バスと自転車の共存プロジェクト 高島代表、稲見副代表）



- ◇「バスドライバーと自転車利用者の意識の共有」と題して、バスの死角体験などの取組をとおして自転車とバスが意識を共有し、安全に道路をシェアするための取組についてご紹介いただきました。

▼取組の報告（NGO 地球の友・金沢 三国成子氏）



- ◇「公共交通との連携」と題して、自転車だけでなく、バスや鉄道などの公共交通との連携に着目した、国内外の事例についてご紹介いただきました。

▼ラウンドテーブル テーブル1



◇基調講演にご登壇いただいた絹代さんを囲み、ロードバイクとクロスバイクなどの自転車の選び方や高齢者の移動手段としての自転車のあり方などについて、活発な意見交換が行われました。

▼ラウンドテーブル テーブル2



◇自転車通行空間整備に伴う、事前広報の重要性や、街路樹が撤去されたことによる影響などについて意見交換が行われました。

▼ラウンドテーブル テーブル3



◇大型路線バスの車内外に設置されているミラーの数について、クイズ形式での意見交換が行われました（正解は10～12個）。
◇バスの運転手は、常に車内外に注意をはらう必要があり、自転車とバスがそれぞれのことを理解する機会が不足していることから、バスの死角体験を行う必要性についてご説明いただきました。

▼ラウンドテーブル テーブル4



◇フランス ナント市における駅周辺のゾーン30指定や、アメリカ ポートランドにおけるサイクルラック付のバスの事例など、国内でも参考になる事例についてご紹介いただき、参加者の方々と意見交換を行いました。